



第95号

2011.1

発行所：四ツ葉園広報委員会
 松江市古志町1551-4
 TEL. (0852)36-8877
 FAX. (0852)36-8894
 印刷：授産センターよつば



第3 たんぼぼの家 紹介

たんぼぼ事業所の七番目のグループホーム(以下「GH」として、第三たんぼぼの家(利用定員六名)が平成二十二年四月一日に利用開始となりました。

この敷地は生活実習訓練施設(暮らしの家)があった場所です。

暮らしの家は、まだGHの制度がない時代に、地域生活を送るための実習施設として準備したのですが、建物の老朽化が進んだため、新たにGHとして建て替えました。

たんぼぼ事業所では現在三十二名の方がGH、ケアホームを利用されており、アパートで生活される方の支援も十二名行っています。

今年度GHからアパート生活に移した方も三名おられ、GHが地域生活の最終段階ではありません。

個々の利用者にとってより豊かな生活を送るために必要な支援を、適切に提供できるようにスタッフ一同心がけています。



(サービスマン管理責任者 福田 友巳)

新年ごあいさつ

理事長 青戸 稔

新しい年を迎えるにあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

また、平素より四ツ葉福祉会に格別のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

今年の正月は、稀に見る大雪で、それぞれに大変な年末年始だった事とお察し致します。

四ツ葉園も職員総出の雪かきのス

タートになりました。一月六日には新年会を行い、還暦・成人のお祝いをし、今年も皆で力を合わせて頑張ろうと誓いを新たにしました。この冬は四ツ葉園では今のところ風邪が流行る様子もなく、このまま皆元気で春を迎えて欲しいのですが、まだインフルエンザや腸感冒の流行りやすい時期であるため、引き続きうがい、手洗いの励行に加えて、各部所の消毒等に力

を入れていくところでは、平成二十三年度中には全ての事業所が「自立支援法」の体系へ移行するという事で、今年には日々の業務に加え、そのための準備を並行して進めていく事になります。

この先法律・制度がどのように変わるうとも、変わらぬ想いで、職員一同一致団結して取り組んでいく所存ですので、今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、平成二十三年が皆様にとって良い年でありませう、衷心より祈念いたします。

研 修 報 告

民間社会福祉施設職員 合宿研修会に参加して

九月六日～十日の五日間、東京で開催された研修に参加させていただきました。

この研修会は、各都道府県から推薦を受けた施設職員が集まり合宿研修を通して参加者相互の交流を図り、コミュニケーションを深めることによりその質の向上を図る事を目的とされていました。

各施設から持ち寄った事例を基に検討会を行い、様々な意見が飛び交う中で感じた事は、利用者を支援するにあたって個別支援計画は重要なものであり、いかにその利用者にとっての計画が立てられるか、又立てているかという事になると思いました。より良い個別支援計画を立てるにはその利用者の障がい特性を知り又、その人がどういうニーズを求めているかを理解した上での職員の技量が求められます。それも踏まえた上で、グループ討論やバズセッションは、問題に直面している利用者について

事例を取り上げ、各都道府県で行われている支援や各機関との連携などの取り組みで成功したケースもあり、高い関心がありました。

又、問題提起として出された事例については、各地域独自の取り組みや情報交換ができ大変貴重な話を聞く事が出来ました。持ち帰った情報を各職員に発信し職員間の連携を深め、今後の業務に役立てたいと思います。

(串崎 幸司)

第26回全国日中活動支援部会 職員研修会に参加して

十二月二、三日の二日間、大阪市で開催された研修会に参加いたしました。今大会では、「利用者の具体的選択、自己決定をどのように支援するのか」をテーマとした進行となりました。

障がい者を取り巻く現状は、各制度の目まぐるしい変化のさなかにあります。障がい者福祉の制度のこ

とを、障がい者抜きで語るべきではないという基本理念の下、制度の改革に障がい者の当事者参加をどのように進めていくのかが大きな課題でもあります。

当福祉会が参加している、「あいサポート活動」についても、当事者参加を推進する一つの形であると思われ、今後こういった活動が、障がい者、福祉施設、行政や司法まで巻き込んで全国的に活発化することにより、障がい者への社会の理解度が上がり、また、障がい者自らの制度改革に携わる力が強まる事が期待されます。

ある施設の紹介の中の、「提供すべきは『自分のことを自分で決めるための支援』であり、そのために職員はその人の思いに徹底的に付き合う」という一節に特に感銘を受けました。

障がい者福祉に携わる者として、当事者参加による制度改革の一端を担うという自覚を持ちつつ、まずは一人ひとりの利用者さんの自己決定への支援を、これまで以上に力を入れていこうという気持ちでおります。

(毛利 勇介)

がん出前講座 「がんについて一緒に学ぼう！」

講師に島根県医療対策課小豆澤伸司氏、榎原啓発サポーターを授産センターにお招きし、がんについての講義を受けました。

島根県の死因原因の第一位が「がん」です。加えて全国で第二位の割合です。ご存じでしたでしょうか。島根県でがんの死亡率が高いのは、がん検診の受診率がとても低いことにも原因があるようです。検診から発見されるがんの七割が早期のがんですが、多くのがんは治る病気で早期発見、早期治療が確実にがん死亡を減らします。がんを防ぐ予防は多々ありますが、とにかく定期的ながん検診や人間ドックが欠かせないことが分かりました。また榎原氏からは自身の発症から経過に至るまでのお話を聞き、改めてがんの怖さを感じました。最後には質問及び感想が飛び交い、充実した研修となりました。

(右田 博久)

焼き肉

パーティー



平成二十二年十一月二十七日に
余暇委員主催により焼き肉パ
ティーを行いました。

場所は島根ワイナリー。休日
でしたが、利用者十四名、職員九名
の参加となりました。車は三台
で、小旅行気分を味わいながらド
ライブ。心配であった天候も日頃
の行いが良いからなのか晴天で、
まさにパーティー日和。
今回のお目当て！

”しまね和牛・豚肉コース“

その響きは私たちの心を掴んで、
離さないであります。

ここで川柳を一句

肉とお腹の虫が

鳴いている

ただ当日運転者や飲めない方も
おられるので、アルコール（ワイ
ン）は無し、と少し残念がられた
方もおられました。そこは皆さ
ん大人な対応。その分お肉に集中
していました。

そして始まった焼き肉パ
ーティー。お肉はジュージューと煙を立
てながらその周りで野菜たちがマ
イムを踊り、それを私たちがこ
やかに食す。まさにこれぞ至福の
時でした。

皆さんの満足げな顔を見て、ま
たこんな企画を考えたい、と思
いました。

帰る前に買い物タイム。お土産
コーナーでたくさんお土産を買っ
て帰られる方がいる一方、皆の味
方の試食がありまして、ワイン以
外を程よく試飲、試食をさせて頂
きました。ワイナリーの皆さま、
試食ばかりしていました。ごめん
なさい。と懺悔をしつつ皆さん
満足して帰路に付いたのであり
ました。

(須山 太二)

ご来場ありがとうございました。



ふれあい感謝祭

(10月30日)

四ツ葉まつり

(10月9日)

行事予定(1～3月)

1月	4日(火)	仕事始め 帰園日
	6日(木)	新年会(還暦・成人の祝い)
	11日(火)	全体集会
	14日(金)	工賃支給(授産センターよつば)
	25日(火)	工賃支給
2月	10日(木)	全体集会
	15日(火)	工賃支給(授産センターよつば)
	25日(金)	工賃支給
3月	5日(土)	保護者会役員会
	10日(木)	全体集会
	15日(火)	工賃支給(授産センターよつば)
	25日(金)	工賃支給 春のディナーパーティー(四ツ葉園)
	26日(土)	保護者会総会



やすらぎの家
ミュージックケア
紹介

昨年の六月より、ミュージックケア総合研修に参加して参りましたが、この度ミュージックケア初級トレーナーの認定証を頂くことができました。研修では、三〇曲の習得とミュージックケアの理論やプログラムの立て方などを学びました。

心理療法、機能訓練、言語訓練、発達支援などを目的とする音楽療法は、最近福祉や医療、教育の現場で注目されるようになってきています。

当事業所では、一昨年より講師の方をお迎えし毎月一回ミユ

ージックケアを行っています。利用者の方の様々な変化にその効果を感じています。障がいを持つ方々がその人らしく、そして笑顔で生きる為の支援としてこのミュージックケアが現場で実践できることはとてもうれしいことです。

今後、四ツ葉園の新たな支援内容として取り組んでいきたいと思っています。

(サービス管理責任者)

坂本 弘子



編集後記

大みそかから正月三が日にかけて大雪となり、雪かきに追われる正月となりました。

昭和三十八年の「三八豪雪」に次ぐ積雪量で、集落の孤立や停電、断水など被害も大きいものとなりました。

これから寒さも厳しくなりますが、皆様もお体を大切に下さって下さい。

※本紙に使用した写真等はご本人・ご家族の了解を頂いています。